徹底的にこだわり抜いた 本物のカンボジア産プロダクト

世界遺産のアンコールワット遺跡群で知られるカンボジア。しかし、工業製品から第一 次製品まで多くが外国からの輸入に頼っており、年々増えるホテルのお土産やアメニ ティ用品も大半は同一の外国産が占めている。そんなカンボジアで"本物の国内産プ ロダクト"を作るべく立ち上がったのが、クル・クメール ボタニカルの代表 篠田ちひろ 氏だ。彼女はどのような想いを胸に現地でビジネスに取り組んでいるのだろうか。

企業からの内定も断り 決意した途上国での起業

「カンボジアで"どこの店も同じものを売っ ている"状況を見て、現地の人たちが現地産 の原料で一生懸命作った"本物のカンボジア 産プロダクト"を目指そうと思いました」と 語るのは、クル・クメール ボタニカルの代 表を務める篠田ちひろ氏だ。同社ではカンボ ジア国内で有機栽培されたハーブを使いホー ムスパ製品を製造。高級ホテルのアメニティ 用品や観光客向けのお土産として販売を行っ

学生時代から、国際協力と起業に興味が あった篠田氏。彼女は途上国への学校設立や スタディーツアーの企画などボランティア活 動に精を出すかたわら、企業でのインターン や社長の鞄持ちでビジネススキルを養ってい た。しかし、こうした生活を送る一方で"自 分の幸せとは何か?"という疑問が拡大し、 バックパッカーとしてさまざまな国を巡りな がら答えを探し求めた。

「人生の選択肢に迷っていた時、恵まれない 経済状況にも関わらず、自分よりよっぽど幸 せそうに見えるカンボジアの人たちと出会っ たんです。衝撃を受け、同時に自分の中で何 かが変わるのを感じました」と語る篠田氏。 この出来事をきっかけに、彼女は悩み抜いた



カンボジア国内で有機栽培されたハーブを使った ホームスパ製品の数々

あげく途上国での起業を決意する。内定が決 まっていた企業に謝罪し、起業に必要な知識 を得るためフェアトレード先進国のイギリス へ。企業でフェアトレードプロモーションを 学んだ後、カンボジアの企業で新店舗の立ち 上げ統括マネージャーとして働き始める。

民間療法をヒントにした スパ製品の製造販売

「現地の植物で製品を作ろうとは考えていた ものの、当時はまだ具体的なアイデアがあり ませんでした。そんな時、多彩なハーブを調 合して茹でたスチームサウナで産後の体を癒 す『チュポン』という民間療法、そしてアン コール王朝時代から1000年以上も伝わるク メール伝統医療の存在を知ったんです」と語 る篠田氏。確かにハーブやスパ製品なら、物 が入手しにくい現地でも生産可能で、なおか つ貧困層の農民と一緒に仕事ができる。さら に、女性観光客の「カンボジア産のせっけん やマッサージオイルはないの? | といった質 問から十分な需要を確信し、現在の事業が生 まれたのである。

しかし、原料生産から加工までを一貫して カンボジア国内で行うには大変な苦労があっ た。パッケージ印刷では納期が2週間も遅れ た上に、印刷会社の社長が「日本製の中古印 刷機だからジャパンクオリティーだ!」と笑 顔で差し出したのは、なぜか色が1枚ずつ微 妙に違うパッケージ。色の違いを指摘すると 「僕はこの色が一番好き」「君はたくさん色が 手に入ってラッキーだ!」という反応が返っ てきたそうだ。

また、農民とのコミュニケーションにも悩 まされた篠田氏は「対等なビジネスで彼らに 自信とスキル、現金収入を得てもらいたいと 始めたものの、納期が守られなかったり、品

ろ の だ ひろ)



質に関する説明を繰り返すのは大変でした | と、カンボジアならではの苦労を語る。

世界中の人々に誇れる カンボジア産の製品を

カンボジアでビジネスを考える起業家に 「日本と違って大変な面も多々ありますが、 こちらの文化や習慣をしっかり理解して共存 すれば、厳しさも楽しさに変わると思います。 物価が低い国なので、日本と比べて起業資金 が少なくて済むのも大きなメリットですね」 とエールを送る篠田氏。

また、今後の展開については「戦争、地雷、 貧困、孤児など悪いイメージが多いカンボジ アから、世界に誇れるハイクオリティーかつ ハイデザインの製品を作り、お客様に喜んで もらうのが目的であり目標です。半年前より 国内5つ星ホテルでスィートルームのアメニ ティに採用されたり、観光客の方に『こんな 可愛い製品、去年はありませんでした』と 言っていただくことも多くなっています。そ うしたお言葉を励みに、今後はカンボジア国 内の販売だけでなく日本やヨーロッパにも進 出し、世界で『この素敵な商品がカンボジア 産なの?』と言ってもらいたいですね」と 語ってくれた。

将来に向け、着実な経済成長を遂げている カンボジア。クル・クメール ボタニカルの 目指す"本物のカンボジア産プロダクト"は、 今後もその歩みを進める上で重要な役割を 担っているのである。 S